

お墓をキレイにしてみませんか？ お墓の建立者（継承者）の役割について

先日、このコラムを読んだと言う方から質問のお電話をいただきました。

質問内容は「うちのお墓には建てた人（建立者）の名前が2人連名で彫ってある。でも最近読んだ本に建立者が複数人彫ってあるのはダメって書いてあってすごく気になっている。どうしたら良いですか？」という質問でした。

おそらくこの方が読まれたのは“墓相”関連の本だと思います。墓相とは古代中国で風水を元にできた考えで、お墓の形、方角、石の種類などから判断し、その家族の家運、人生の吉凶を占うというものです。

確かに墓相（墓相学ともいう）では建立者は1名で彫るのが良いとされていて建立者が連名で彫ってある場合、その家は遺産などの相続争いがおきたり、兄弟仲が悪くなったりするといわれています。

そもそも建立（こんりゅう）とは寺院や塔を建てることを意味し、それをおこなった人を建立者といいます。お墓の場合でもお墓を建てた人が建立者になるのですが、それと同時に建てたお墓を継承していくという役割が生まれます。したがってお墓の建

立者＝継承者という意味も含まれてきます。



有限会社 福井石材
代表取締役 福井基紘

『亡くなった方の奥様と子ども、兄弟の名前、または親戚の連名で彫られていることがあります。これでは継承者が複数人いる、と意味していることになります。継承者は原則的に一人です。継承者が複数人いると家の中は混乱し次第に仲も悪くなってしまいます。』というのが墓相学の考えです。

ですがこれは一種のおまじないのようなもので、お墓に複数人の名前を刻むよりも長男（跡取り）一人の名前を彫っておけば継承者としての自覚も生まれ、家を守っていつてくれるだろうという願いからきたものだと思います。

したがって私は墓石に連名で名前を彫ることは悪いとは思いません。

ただ昔からの言い伝え、伝承を知らなかったり、否定による連名で墓石に刻んだりするのは良くありません。

先人の教えを元に連名で彫る場合はだれが継承者になるのかを話し合い文章にしておくのが良いとおもいます。公正証書にしておけばより安心なのではないでしょうか。

このようにお墓に対する考えは宗教、宗派によっていろいろ異なります。答えはひとつとは限りません。いろんな意見からあなたの人生を探してみてください。

